

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：	田辺工業高等学校	学校長名：	森下 憲一 印
------	----------	-------	---------

めざす学校像 育てたい生徒像	自主・自立の精神と高い志をもち、自他の人権を尊び 礼節と品格を備え五心を実践できる生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 基礎学力の定着と専門的・実践的な知識。技能の習得
	2 キャリア発達の支援と望ましい勤労観・職業観の育成
	3 職業教育の特性を生かした豊かな人間性と市民性の育成
	4 地域と次世代を担うものづくりスペシャリストの育成の方法

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用、アクティブラーニングを取り入れた授業実施。(25%)</li> <li>技術者派遣事業・企業説明会・インターンシップ事業等の積極的な活用。</li> <li>技能検定受験者の20%増加とコンテストや競技会への出場。</li> <li>生活指導や生徒支援の計画的な取組の実施。</li> <li>先端技術の研究開発の着手。</li> <li>ユニバーサルデザインに視点に立った授業づくり研究</li> </ul>
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	ホームページに生徒学校評価、外部学校評価、職員学校評価の結果を掲載する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価(3月31日現在)		
重点目標					重点目標		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善方策
重点目標1	基礎学力の定着については朝の学習や習熟度別の授業展開など工夫を凝らし、一定の成果が見られる。しかし、一部の低学力者については十分な改善が見られない。また、その大部分は学習面のみならず生徒指導面でも課題を抱える。昨年度に引き続き、コロナ禍における学習環境の整備および感染状況に対する柔軟な対応が必要である。また、誹謗中傷や感染対策のマナーなどの指導を図る。(教務、生徒指導、生徒支援、担任)	生徒の学びに対する興味・関心を高めるための授業内容の改善や生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに積極的に取り組むことが出来たか。特に低学力の生徒への学習面や生活面の支援策を構築し、改善することができたか。コロナ禍における対応や取り組みが実施出来たか。	基礎学力の定着 低学力者への学習支援の充実 学ぶ姿勢を身に付ける 担任の生徒に寄り添ったきめ細やかな指導 現状に応じた生徒指導の改善と充実 生徒支援の改善と充実 新型コロナ感染防止対策の取り組みおよび行動やマナーの指導の徹底 ICT機器の活用と手法の研究 ユニバーサルデザイン授業の実践 研究授業や公開授業を活用	遅刻の減少(10%) 欠点保持者の減少(30%) 追認考査第一回で75%以上の認定 授業中の生徒指導の減少(50%) 生徒指導の改善(30%) 生徒支援の改善(20%) 月一回の特別支援委員会の開催および支援シートの活用(70%) 感染防止に対する指導の実施(20回) ICTの活用(70%) ユニバーサルデザイン授業の実践(20%) アクティブラーニングを取り入れた授業(30%)	基礎学力の定着は朝学や習熟別授業展開を継続実施している。また、各担任が家庭と連絡を取り、学習環境づくりや学習支援の面で様々な取り組みを行っている。指標にあげた遅刻や欠点保持者の減少については少しずつではあるが成果が見られる。生徒指導件数は昨年と比較し、31%の減少が見られる。さらには一昨年から56%の減少となる。これらは先生方のきめ細やかな指導や未然防止への取り組みと生徒の理解による成果である。新型コロナ感染防止対策では学校関係者の協力により、校内の連絡体制や調査・報告体制が確立しつつある。また、感染拡大時に備えたオンライン授業の導入やTeams、Formsの活用は情報処理委員会が先導して校内で推進している。	B	基礎学力の定着や学習環境の充実については今後も引き続き継続して行う。これらをもとに生徒の学びに対する意識の改善や学校生活の充実を目指す。生徒指導については未然防止を目的とした様々な取り組みが成果として現れてきたと考える。今後も組織的な取り組みを継続し、学校全体の改善を期待する。新型コロナ感染対策については日常的に感染防止対策を行っている。また、保健所をはじめ教育支援課との連携は円滑に行えた。遠隔授業やオンラインを活用した課題の授受を引き続き充実したものにしていく必要がある。併せて、マナーなどの情報教育も必要である。
重点目標2	「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の推進に向けて様々な取り組みを行っている。専門教科や産業への興味や関心を持たせ、人材育成の体制や学ぶ環境を整備し、キャリア教育につなげることが課題となる。(進路指導、教務、専門教科)	生徒がものづくりや工業教育を通じて、専門教科や産業に興味関心を持ち、理解を深めることができたか。また、それらが進路選択等キャリア教育に活かされているか。	企業講師・地域企業技術者派遣の活用 説明会やオープンカンパニーへの参加 コンテストへの参加や資格取得に積極的な取組	企業や地域の技術者を招聘しての生徒への技術教授を推進 企業合同説明会への3年生全員参加と応募前職場見学の推進 企業へのインターンシップの実施 コンテストへの積極的な参加(各科参加)や資格取得(前年20%増)を通じて専門教科や産業に関心を持たせる。	全体的には新型コロナ感染拡大により、多くの取り組みが制約を受けた。そのような中で、各学科毎で企業見学や企業の方を迎えた出前授業などできる限りの工夫を凝らし実施した。企業説明会には3年生が例年同様に参加する事が出来た。インターンシップやコンテストへの参加については感染状況に大きく影響され、予定した取り組みが困難であった。	B	今後も新型コロナ感染症の感染拡大のもとで様々な取り組みが計画されている事から、より効果的な方策を検討しながらキャリアアップ教育の実現を目指す。また、近年ではコンテストへの参加や資格取得が容易ではない状況となる事を想定したうえで、積極的な取り組みを行う。具体的には資格取得率の向上を目指す。
重点目標3	本校の生徒は自らの意見を述べる機会や成功体験が少ない傾向にあることから、自信や自己肯定感を高めることに繋げることが人材育成にとって重要な課題である。昨年度は生徒達がこれまでに経験したことのない活動に取り組む、貴重な経験を得る事が出来た。また、これらの取り組みを通じて、生徒会活動に活気が見られるようになった。(特別活動、生徒会)	生徒が主体的に取り組む機会を増やすことや、その取り組みを通じて喜びや自信を実感して自らの成長に繋げられたか。また、それらの活動を教職員が積極的にサポートし、生徒と共に活動し、信頼関係を築く取り組みになったか。	生徒自身が地域をはじめ、校外での取り組みに積極的な参加 地域清掃ボランティアや社会貢献活動の実施 生徒会が主体的に企画・運営する行事の計画 「読み聞かせ」のを継続実施 中学生を対象とした学校説明会や技術講習会の実施 生徒会の新たな行事の立案と運営	県警主催のマナーアップキャンペーンや田辺市主催の高校生レポーター等地域の取り組みの参加 地域清掃ボランティアや学童保育所での「読み聞かせ」のを継続実施 中学生を対象とした学校説明会や技術講習会の実施 生徒会の新たな行事の立案と運営	生徒が主体的に様々な取り組みを通して、自らの成長に繋げる事を目標にして様々な取り組みを行ってきたが、コロナ禍における外部機関との取り組みや校外での活動は困難な状況であった。このような状況下ではあったが、中学生体験学習や文化祭では生徒が積極的に関わり、貴重な体験をすることができた。	B	外部機関との関わりを持つ事は貴重な経験であると同時に自信や自己肯定感を養う機会となる。コロナ禍における感染防止策を行いながら、積極的な取り組みが出来るように学校として検討する。また、校内においても行事の企画や発表など生徒が新たな自分を発見できるような取り組みが出来るように職員がサポートする。
重点目標4	地域はもとより和歌山県全体の産業を支えるスペシャリストの育成を目指し、教育機関、行政、産業と積極的に連携する。また、教職員のスキルアップが必要となることから確かな知識・技術を身に付け、品格を兼ね備えた教職員で構成する学校づくりを目指す。(専門教科、教職員)	地域や企業が求める人材を理解し、教職員が積極的に外部と関わり、協力を得ながら確かな技術や新技術を工業教育に取り入れることが出来たか。教職員が自発的にスキルアップに取り組む事ができたか。	教員の全工協講習等研修機会の活用 企業や外部機関との連携を充実とスキルアップ 確かな技術をあらゆる機会を通じて生徒に教授 現職教育を開催し、専門知識・技術を共有し 教職員全体のスキルアップ 先端技術を活用した課題研究の実践	全工協講習等研修に参加し、校内で講習内容を共有する。 先進技術を有する企業や大学と連携を図り、高度な専門知識の習得に努める。 専門教科間の連携を図り、ものづくりに取り組む。 課題研究の成果発表を通じて学校のPRを行う。	工業科のスキルアップを目的とする講習会への参加や企業・大学・専門教科間の連携によるものづくりの取り組みについては実施が困難であった。そのような状況下で課題研究はこれまで同様に特色溢れる取り組みがなされ、本校のPRに通じる研究発表ができた。	B	企業や社会が求める人物像を職員が理解し、そこに必要な知識や技術を指導できるように自己研鑽に取り組む。また、大学や企業などとの連携から高等学校では学ぶ事の出来ない技術に触れる機会をつくり、生徒の技術者への成長のサポートを行う。

学校関係者評価	
令和4年3月実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
【外部アンケート】	
1. 本校は、「特色ある学校づくり」に努力が見られ、生徒や保護者にとって魅力があり信頼できると思われませんか (A 60% B40% C 0% D 0%)	
2. 本校は、「生徒の健康管理」や「校内の環境美化」「施設の整備」が行き届き、快適で安全な学校生活を送っていると思われませんか (A 20% B 70% C 10% D 0%)	
3. 本校は、「生徒会活動」や「クラブ活動」に熱心に取り組む生徒が多く、楽しく学校生活を送っていると思われませんか (A 50% B 50% C 0% D 0%)	
4. 教職員は、「わかりやすく工夫をした授業」を行い、お互いに協力して情熱をもって教育活動に当たっていると思われませんか (A 40% B 50% C 10% D 0%)	
5. 教職員は、生徒へ気軽に声かけなどを行い、模範となる言動で生徒が社会の一員として身につけるべきことを適切に指導していると思われませんか (A 50% B 50% C 0% D 0%)	
6. 教職員は、「保護者や来訪者に対して誠意をもって対応」し、気軽に相談に応じるなど信頼できると思われませんか (A 50% B 40% C 10% D 0%)	
7. 「インターンシップ」の導入など、地域での職場体験活動が積極的に行われていると思われませんか (A 45% B 45% C 10% D 0%)	
8. 本校は、「気軽に来校しやすく」「保護者や地域と連携」して様々な教育活動を進めようとする雰囲気があると思われませんか (A 20% B 70% C 10% D 0%)	
9. 本校は、よく「保護者や地域の意見を取り入れて」教育活動を行おうとしていると思われませんか (A 11% B 78% C 11% D 0%)	
10. 本校は、地域の行事等に積極的に参加するなど、さまざまなかたちで「地域交流」を行おうとしていると思われませんか (A 3322% B 56% C 11% D 0%)	
11. 本校は、「学校便り」や「ホームページ」など各種連絡文書で学校の教育活動がよく知られていると思われませんか (A 50% B 30% C 20% D 0%)	
【ご提案・ご意見】	
・様々な課題に対して外部機関との連携や情報収集を行い、生徒に合った対応が出来るように期待します。	
・コロナ禍における制限下で資格取得や部活の活躍、進路決定と有意義な高校生活を送られたこと。また、そのようにご指導されたことに感謝申し上げます。	
・田辺工業高校としてのスクールポリシーが必要なのではないのでしょうか 各科の特徴的なポリシーを設定する方がわかりやすいのではないかと	